白鳥の拝殿踊

国選択無形民俗文化財　　白鳥拝殿踊り保存会

切子灯籠とは、吊るした依代（よりしろ）であり、盆灯籠の一種です。古くは鎌倉時代の後期より、盂蘭盆の神霊祭などに点灯した物であり、先祖の供養の場で神霊、仏霊を迎える住まいの目印の場に吊るし、また、悪霊が降臨しないよう魔除けとして吊るされた物が、華やかとなり現在の切子灯籠になり、先祖の霊を慰める盆提灯の意味を持つものでもある。

①場所踊り

江戸時代の盆踊りの中心的な踊りで、8種目の中で最も古い踊りである。かつては郡上市内の八幡町以北に分布し、明治中期ころまでは盛んに踊られていたが、戦争を境にすたれて今ではほとんど踊られていない。この踊りを知る古老によると、一晩中踊り明かしたといい、動作は単純素朴、速度のゆるやかな踊りで、長時間踊り続けることが容易だったということである。

②ドッコイサ（神代）

囃し言葉から呼ばれている種目名である。この「ドッコイサ」の囃し言葉を持つ踊りは、隣接の奥越前と岐阜県内の武儀郡板取村で踊られている。またこの種目は、越前に隣接する滋賀県湖西に発したものが伝来したものだともいわれている。農作業に疲れた一時、肩に手をかけたり、馬の背に手を乗せて「ドッコイサ」を歌いながら、一日の労働の終わりを喜び合ったであろう情景を想いとることができる。

③エッサッサ（世栄）

奥越前や岐阜県内の武儀郡板取村や大野郡荘川村にまで広がっている白山民謡文化圏奥越前系の代表的な踊り種目である。踊輪の中で歌い手が音頭を取りながら逆回りに踊る。全体的にテンポが速い白鳥の拝殿踊の中でも、特にテンポが速い。

④ヨイサッサ（老坂）

白山民謡文化圏奥越前系の代表的な踊り種目である。花づくし数え歌に続いて、宝暦騒動における名主善右衛門と娘おせきの物語が、口説きで歌われる。この踊りでは、歌い手が踊輪の中で音頭を取りながら、逆回りで踊る。

⑤猫の子

近世農家では籾を食べる害獣であるネズミを捕る猫が飼われていた。歌詞にもネズミを捕る猫が唱われており、この踊りは子猫の所作を真似た踊りといわれている。作業歌から盆踊りに転化したものと思われる。奥越前から石川県白山山麓にまで流布している白山民謡文化圏奥越前系の代表的な種目であり、岐阜県内では郡上市の大和町・八幡町・美並村、さらに武儀郡 の板取村と洞戸村にも伝承されている。

⑥シッチョイ

隣接の奥越前和泉村から大野市山間部、さらに平坦部にまで流布している種目で、岐阜県内では白鳥町しか踊られていない白山民謡文化圏奥越前系の代表的な種目の一つである。白鳥地区と大和町徳永のお寺づくし数え歌が歌われる。

⑦ヤッサカ（八ッ坂）

古くは、この地方で家屋を建てるのに先立ち、近所隣りの村人が集まり、石搗の労働奉仕をする習わしがあった。その時の歌が「ヤッサカ」であったという。また一説には、この地方の養蚕が盛んであった頃、生糸を紡ぐ糸引き娘が作業の時に歌ったともいわれる。いずれにしても労働歌から踊り歌になったものである。越前の大野市真名川流域、武儀郡板取村でも踊られている白山民謡文化圏奥越前系の代表的な曲の一つである。

⑧源助さん

江戸時代のお座敷歌であったと思われる種目で、白山民謡文化圏本来の種目ではないと思われる。三河・越前にもあり、発祥・伝承経路は明らかでないが、大正期頃、愛知県の製糸工場へ女工にいっていた人たちが郷里へ伝えたようである。現在岐阜県内では、白鳥町と高鷲町のみで踊られている。白鳥地区では、この踊りを「場開きの踊り」としている。